

非英語専攻学生に対するパラグラフ・ライティング指導 — パラグラフ概念の定着が支持文の創出を促す —

石橋 千鶴子

本稿は、2004年9月3日中京大学で開催された第48回大学英語教育学会全国大会に於いて、JACETライティング研究会が行ったシンポジウム「コミュニケーションを目指すライティング指導—新しい方向を求めて—」の中で、事例(4)として筆者が口頭発表した内容に加筆したものである。

1. はじめに

筆者は、長年、非英語専攻学生を対象にパラグラフ・ライティングの指導を行ってきた。学生のライティング能力の実態を確認するために、毎学期指導を始める前に英文自己紹介文を書いてもらう。その都度、学生のパラグラフ認識の欠如が確認され、その指導の必要性を認識させられる。高校のライティング授業が和文英訳を中心に行われ、実際に英語で作文を書く機会が殆どない(宮田2002)ため、パラグラフについて認識する機会が少ない状況がうかがえる。

非英語専攻学生を対象に行ってきたパラグラフ・ライティング指導と効果について、2004年3月、「非英語専攻の学生に対するパラグラフ・ライティングの指導とその効果」と題して、愛知淑徳大学『現代社会学部論集』第9号の中で報告した(石橋2004)。その「おわりに」で、筆者は、「書き手が明白なトピックを意識すると、具体的な説明文の創出が容易になる様に思われたのである。しかし、この点に関しては、書き手である学生自身の感想を確認しなければならないだろう」(石橋 2004:85)と述べた。この点を検証することが、本研究の主な目的である。そのために、2004年7月、学期の終りに、非英語専攻学生対象のライティング・クラスにおいて、アンケート調査を行った。

本稿では、上記科目の2004年4月～7月の授業活動に焦点を絞り、(1)学生のライティング作品の分析、(2)アンケート結果の分析、という2つの視点から検証を行い、新たに確認されたことを中心に報告する。

第2章で本科目を履修した非英語専攻学生の英語ライティング能力の実態について、第3章で具体的な授業活動について、第4章でライティング作品の分析、第5章でアンケート調査と結果の分析、第6章はまとめに当てる。

2. 本科目履修者のライティング能力の実態

2004年4月、非英語専攻学生を対象にしたライティング科目2クラス(半期選択科目、1、2年対象、少数の3年生を含む合計56人)において、学生のライティング能力の実態を把握

するために、例年通り第1時間目の授業で30分程を割き、英語の自己紹介文を書いてもらった。パラグラフ構成の有無に着目した分析結果を、1998（石橋1999）、2003（石橋2004）のものと共に以下に示す。

	パラグラフ構成が整っているもの	パラグラフ構成の欠如したもの
1998年4月	110人中39人 (35.5%)	71人 (64.5%)
2003年4月	82人中20人 (24.4%)	62人 (75.6%)
2004年4月	56人中14人 (25%)	42人 (75%)

56名中、パラグラフの構成が整っていたのは14名、その中で構成とフォームの両方が整っていたのは2名だけであった。12名は、まとまりのある記述をしていたが、パラグラフのフォームは整っていなかった。今回も、パラグラフ認識が欠如した学生が75%と多いことが確認された。1行に1センテンス書いている学生（28名）と、話題の異なる英文をただ書き連ねている学生（14名）がいた。

近年、コミュニケーション能力の養成を目指した英語教育が重視・強化されているにも関わらず、Grohe が1988年に指摘した状況、すなわち、パラグラフを意識していない日本人学生が多いため、彼等に日本語と英語のレトリックの違いを認識させなければならないという状況（Grohe 1988）が全く変わっていないようだ。英文ライティング指導のあり方に、その責任があるように思われる。

では、パラグラフに対する認識が、なぜ重要なのか。日本人の書いた英文に関する研究で、読み手の理解を妨げる要因として、文法的誤りより不適切な語彙の使用や話題の混在が多いことが検証されている（木村1996、Tange et al. 1999、宮田編2002）。さらに、誤りを含む文であっても、トピックが明白で、十分な文脈が与えられていれば、その誤りが読み手の理解にそれほど大きな妨げにはならないことが確認されている（宮田編、2002）。まとまりある文脈からトピックについての背景情報が与えられていると、読み手の的確な状況推測が促されると考えられるからだ [天満 (1989) 参照]。そこで、パラグラフを意識して書かれているかどうかは、読み手の理解に大きな影響を与えるため、非常に重要なのである。

3. 授業におけるライティング活動

3.1 パラグラフ・ライティングの指導

2004年度前期ライティング・クラスにおける授業活動は、パラグラフ・ライティングの指導後、コントロールしたライティングで仕上げる英語総合活動の実践であった。

まず、授業の30分程を費やし、パラグラフの基本を簡単に説明し、テキスト（上地2000）にあるサンプル・パラグラフで確認した。1つのパラグラフには1つのトピックがあること、そして、それを表現する主題文（topic sentence）とそれについて具体的に説明・発展させる支持文（supporting sentences）からパラグラフが成り立っていることを理解させる。トピックが変われば、必ず新たなパラグラフを始めることを強調、パラグラフの頭は、5、6文字分引込められることを理解させる。英文のパラグラフは、日本語文と異なり、すべての文がトピックに直線的につながっているということ、それゆえ、どの文も主題から逸れてはいけない（Grohe 1988）

ということを重ねて強調する。

3. 2 英語総合活動とControlled writingの実践

パラグラフを指導した後は、英語総合活動を行う。テーマを決め、意見交換した後、内容を確認、そして、最後にその内容の要旨を書くというControlled writingの実践を通して、パラグラフ構成の定着を目指した。岡（2002:112）が「すべての技能が統合的に展開される」内容中心の多面的な総合英語活動が将来的に期待されていると述べているが、本総合活動は、強いサポートを得たように思われる。なお、テキストは、サンプル・パラグラフの確認のためにだけ部分的に使う。

なぜ、コントロールしたライティング実践を重視するのか。一つには、パラグラフ・ライティングの基本を半期で確実に定着させるため。理由のもう一点は、30人前後というクラスサイズで教員が添削を行うには、情報量と言語の調整なしでは難しい。添削に際限がなくなり不可能になる。ライティングのフィードバックの方法と効果、そして学生の受けとめ方については、意見が分かれるところだが（Goldstein 2004）、筆者はこれまでのライティング指導の経験から、コントロールした上で学生に英文を書かせ、教師が添削することが、特に学生への動機づけの点から効果的であると考えている。

前期13回の授業実施で、課題として学生が提出したライティング作品は、計11点（4月・7月の自己紹介文計2点を含み、レター・ライティングも1点として数える）であった。内容は、以下の通りである：

（1）サマリー・ライティングの実施（2回）

ビデオ教材を用いて、英語オーラル・アクティビティーで内容を把握した後、最後にサマリーを書く。学生数の多いライティング・クラスに有効な英語総合活動として、筆者が長年続けてきた活動である（石橋1993）。活動の詳細は、以下の通りである（資料1参照）。

- ①ビデオのストーリーを視聴（5分x2回）。答えをつなげばパラグラフ／サマリーになるような質問“summary in question form”（Graves 1988）を与える。
- ②オーラル・アクティビティーで内容把握：上記の質問を使ったQ&A、スクリプトを使った役割練習などを行う。
- ③サマリー・ライティング：内容を十分に把握した後、最後に行う。上記①の質問の答えをつなぎ、サマリーを仕上げる（資料1参照）。文法、語彙・表現の大きな間違いを添削して返却。
- ④仕上げとしてのレター・ライティング：修正したサマリーを手紙に入れこむ形でリライトする。

（2）「時間的配列」のパラグラフをテキスト（Unit 4）で確認。各自の“Weekly schedule”について英語で意見交換。口頭で確認した内容に基づき、第1パラグラフにweekday scheduleについて、第2パラグラフでweekendsについて書いてくるよう指示。翌週、提出。添削し返却（資料2参照）。その後、仕上げのレター・ライティングを課し、学生はリライトしてくる。

(3) 「比較・対照のパラグラフ」をテキスト (Units 6,7) で確認。英字新聞のディベート記事 “City life vs. Country life” を読み、意見交換。都市生活、田舎生活のそれぞれの魅力と短所を英語で確認。確認内容に基づいて、第1パラグラフにcity lifeの長所を、第2パラグラフにcountry life の魅力について書いてくるように指示 (資料2参照)。その後の活動は、上記(2)に同じ。

(4) 「因果関係」のパラグラフをテキスト (Unit 8) で確認。テーマとして少子化の背景理由とその結果について意見交換し英語で確認。その内容に基づき、第1パラグラフにその背景・理由を、第2パラグラフにその結果として生じる問題を書いてくるよう指示。翌週、提出。添削し返却 (資料2参照)。

(5) 学期末7月の授業において、再び英文自己紹介文を書く (30分程) (資料1参照)。

なお、上記の口頭活動は、日本語を交えながらも出来るだけ英語で意見交換を行い、英語で確認する。それは、(1) 英語習得のために、英語への接触を増やし、理解可能なインプットを増やす必要があること (Krashen 1987)、(2) non-native speaker同士のインタラクションであっても言語習得を促すという主張 (Long 1985) の2点を念頭においてのことである。

4. 分析(1) ライティング作品の分析

半期授業で課したライティングのいずれも、書く前にまず、テーマについて口頭で意見交換を行い、英語で確認。その確認された内容について、第1パラグラフに何を書く、第2パラグラフに何をという教員の指示に基づいて書いたcontrolled writingである。そのため、学生のはほぼ全員が、いずれの作品でもパラグラフ構成とフォームの整ったものを書いてきた。それぞれ、文法、語彙・表現の大きな間違いを添削して返却、修正したサマリーを手紙に入れこむ形でリライトすることを課したので、レター・ライティングも全員が合格と言って良い結果であった。

しかし、文法および語彙の改善は、あまり確認できなかった。そのため、ライティングの改善状況を確認するためには、パラグラフ構成の有無がはっきり見られる4月および7月の英語自己紹介文を比較しなければならないと思われた。それ以外の作品を比較しても、文法・語彙の改善が少ないため、ライティング自体の改善を確認することは難しいと思われる。

そこで、4月および7月の英語自己紹介文(2クラス合計56人)を比較・分析し、ライティングの改善状況を確認することとした。ESL Composition Profile (Jacobs et al. 1981)の分析項目中のパラグラフ構成とフォームに着目、トピックを意識したまとまりのあるパラグラフが書かれているかどうか、順序だった一貫性のある話の展開となっているかどうかという点に焦点を当てて考察、さらに自己紹介文の総語数の平均を比較し、数量的分析を加えた。その結果、以下のとおり、確認された：

(1) 先に述べたように、4月の自己紹介文では、パラグラフ構成があるものは25%だけ、他はパラグラフの意識がないまま書かれていた。7月の自己紹介文は、パラグラフ構成およびフォームの両面で、ほぼ全員が十分に整っていた。順序だった話の展開でまとまりあるパラ

グラフが書かれていた。平均総語数も、4月の64.9語から、7月には80.3語と、大幅に増加していた。そこで、4月の自己紹介文と比べ、7月の作品では、ライティングの質的・量的改善がはっきりと確認された。

(2) 7月の自己紹介文で、ほぼ全員のものに確認されたことだが、4月と同じトピックについて書かれている部分で、その記述が大幅に増えていた。そこから、書き手が明白なトピックを意識すると、具体的な説明文の創出が促されたことが推測された。この点に関しては、次章で学生の感想・コメントの分析を通して、さらなる検証を加える。

資料1の学生Aさん、Bさんのライティングそれぞれ4作品ずつ（4月指導前の自己紹介文、サマリー・ライティング、レター・ライティング、そして7月の自己紹介文）を見ると、指導後のライティングにおける質的・量的改善が確認できるだろう。このような明白な改善が確認できるのは、パラグラフ構成を意識していなかった学生が、それを意識して書くようになった段階だけではないだろうか。その後は、6ヶ月間の学習で、文法や語彙の大きな改善を確認するのは難しい。今回も、指導後は、パラグラフ構成・フォームに関して問題がなかったが、文法の間違いに気付いた者はほとんどなく、同じ誤りをくり返していた。

文法の改善が難しいことに関しては、Yoshimura (1997)やOkumura (1997, 1998)も同様の指摘をしている。ライティング指導の結果、書く力においては改善を確認できたが、文法は改善されなかったという。広瀬 (1998) も、ライティングの指導において、指導前のライティングと4ヶ月後のものを比較、指導前に“good writer”と見なされた学生より“weak writer”であった学生の方が大きな改善を示したと述べている。“good writer”であっても、4ヶ月間では文法・語彙などの面での改善は確認しにくかったのではないかと思われる。

読み手の理解を妨げる要因として、文法的誤りより不適切な語彙の使用が深刻であることが検証されている (Fujieda, K. & Mann, R. 1992a, 1992b)。しかし、ライティングの質を高めるためには、文法の改善も語彙の改善も重要であり、その改善方法は今後の検討課題である。

<資料 1-1>

①<自己紹介文 4月>

My name is XXXXXX.

I belong to the Faculty of Studies in Contemporary Society in Shukutoku university.

I am majoring in architecture.

I am nineteen years old. I live in XXX city.

I usually get to my college by train and bus.

It takes to get to college for two hour.

In my college, I belong to XXXXX club.

XXXXX club's people are very fun.

My family member is five people, father, mother, two sisters and dog. My dog's name is XXX.

She is ten years old. She isn't young.

2年生 A さんのライティング

④<自己紹介文 7月>

My name is XXXXX. I am twenty years old in June. I am a student in Aichi shukutoku university.

I belong to XXXXX club in my university. We play XXXX for four days in a week. It is very hard for me. But this club's people is very kind and very fun. I like them and XXXX.

I hope I would belong XXXX club until my graduation.

My hobby is shopping. I like to walk and see at many shop. But I can't have a lot of money. So I can't buy a lot. But I like it. It also is one of funny.

There are 6 people in my family. It is father, mother, two sisters and a dog. Two sisters is a old sister and young sister. I am middle daughter. A old sister's name is XXX. She work in a company in this year. And a young sister's name is XXX. She is a high-school student. She also is a freshman. The dog's name is XXX.

②<サマリーライティング 6月>

ビデオ Family Album, U.S.A. の Episode 1 :

サマリーライティングのために、以下の質問を与えた。

- 1 Who is Richard? Who is Alexandra?
- 2 One day, Richard and Alexandra met each other for the first time. Where and how did they get to know each other? What happened to Richard's bag then?
- 3 What did Alexandra do with the bag?

↓
Outline of the story
Richard is a ~~man~~ ^{photographer} who takes pictures about family. This photo album's name is "Family Album U.S.A.". He lives in Riverdale in New York. Alexandra is an exchange student at the Bronx High School of science from Thessaloniki in Greece. Her favorite subjects are Biology and mathematics. And she lives in the Bronx with a Hispanic family.

One day Richard and Alexandra met each other for the first time on the ferry boat in New York harbor. They enjoyed seeing photo album that was taken by him. And he showed her his family's photos. But when he left, he forgot his bag. There is eight rolls of a whole day's work in the bag.

But Alexandra found the bag and she took it to his house by train. She was thanked by him. And he met all member of Stewart family ^{the} with his wife Marilyn, Robbie, Susan, Ellen and Philip.

③<サマリーを組み込んだレターライティング 6月>

Dear Mr. XXX,

How are you? I hope you and your family are all well. I am fine and enjoying my college life.

Today we watched an interesting video in one of my English classes. I would like to tell you the story. It goes like: Richard is a photographer and taking pictures of his family. This photo album's name is "Family Album U.S.A.". He lives in Riverdale in New York. Alexandra is an exchange student at the Bronx High School of science from Thessaloniki in Greece. Her favorite subjects are Biology and mathematics. And she lives in the Bronx with a Hispanic family.

One day Richard and Alexandra met each other for the first time on the ferry boat in New York harbor. They enjoyed seeing photo album that was taken by him. And he showed her his family's photos. But when he left, he forgot his bag. There were eight rolls of film, a whole day's work in the bag.

But Alexandra found the bag and she took it to his house by train. She was thanked by him. And he met all the members of the Stewart family, his wife Marilyn, Robbie, Susan, Ellen and Philip.

I hope you will see video in your free time. I have to get back to my studies now.

I am looking forward to hearing from you.

Sincerely,

XXX XXX

June 25, 2004

<資料1-2>

1年生Bさんのライティング

④<自己紹介文 7月>

①<自己紹介文 4月>

My name is 'X.X.X.X X.X.X'.
 I'm from XXX.
 There is a little far. So I usually go tired.
 I would like to belong to the architect^{al} studies course.
 I want to be a great architect.
 I'll plan and design houses or buildings for many people.
 That's my dream.
 I'll study hard many things for it.
 And I'll also study English.
 In a few years, I'll be a perfect speaker in English.
 And I'll be an international great architect!
 I hope so.

My name is 'X.X.X. X.X.X'. I'm from X.X.X.
 So the distance from my house to my university is far.
 Every day, I have to take the JR line, the subway and
 the bus. I feel so nervous because they are very crowded.
 In my university, I belong to the faculty of
 studies on contemporary society. The reason that I choose
 this course is that I want to become an architect. I'm
 very interested in architecture and interior design.
 I want to study many things about architecture.
 Someday, I want to go abroad to see the
 famous historical architecture. Until the time I'll study
 English hard, too. I hope that I become a person
 who speak English as native speakers.

②<サマリーライティング 6月>

ビデオ Family Album, U.S.A. の Episode 1 :
 サマリーライティングのために、以下の質問を与えた。

- 1 Who is Richard? Who is Alexandra?
- 2 One day, Richard and Alexandra met each other for the first time. Where and how did they get to know each other? What happened to Richard's bag then?
- 3 What did Alexandra do with the bag?

Richard Stewart is a photographer. He makes a photo album. There are many photos of the United States, working people and his family in the album. And Alexandra Pappas is an exchange student from Thessaloniki, Greece. She goes to the Bronx High School of Science. She lives with a Hispanic family.

One day, Richard and Alexandra met for the first time on the ferryboat in New York Harbor. When Richard was taking pictures, Alexandra offered ~~her~~ help. After that, they enjoyed talking about Richard's album ~~was~~. At 5:30, Richard got off the ferryboat because he had to meet his wife. But, he ~~was~~ left his bag with some rolls of film.

Alexandra found the bag. So she decided to take it to Richard's house for herself. Richard was worried about his bag and film. And when Stewart family finished eating their dinner, Alexandra reached their house with Richard's bag. And she was very welcomed and thanked. She met all the member of Stewart family for the first time. They ~~are~~ all pleased with her.

③<サマリーを組み込んだレターライティング 6月>

June 18, 2004

Dear Ms. XXX,

How are you? I hope you and your family are all well. I'm fine and am enjoying my college life.

Today we watched an interesting video in one of my English classes. I would like to tell you the story. It goes like this: Richard Stewart is a photographer. He is making a photo album. There are many photos of the United States, working people and his family in the album. And Alexandra Pappas is an exchange student from Thessaloniki, Greece. She goes to the Bronx High School of Science. She lives with a Hispanic family.

One day, Richard and Alexandra met each other for the first time on the ferryboat in New York Harbor. When Richard was taking pictures, Alexandra offered help. After that, they enjoyed talking about Richard's album. At 5:30, Richard got off the ferryboat because he had to meet his wife. But, he had left his bag with some rolls of film.

Alexandra found the bag. So she decided to take it to Richard's house for herself. Richard was worried about his bag and film. And when the Stewart family finished eating their dinner, Alexandra reached their house with Richard's bag. And she was very welcomed and thanked. She met all the members of the Stewart family for the first time. They are all pleased with her.

I hope you will see this video in your free time. I have to get back to my studies now.

I look forward to hearing from you.

Sincerely,
 X.X.X. XXX

<資料 2>

2年生 E さんの "Declining birthrate"

Can you have a comfortable life in the future? Recently, many people can have higher education, so not only men but also women hope ^{to get} a better job. They want to realize their dreams. But then, women don't have a lot of children, because they continue working even after getting married. The number of single women has been increasing. In addition, we need a lot of money to raise children, especially education cost. We don't have enough social system to help working mother. As a result, the ^{it} (declining) number of children ^{is} ~~is~~ ^{decreasing}.

The birth rate is 1.29 ~~percent~~ in Japan. Falling birth rate is serious problems today. First, working population will decrease. This society may not function smoothly and ~~lose~~ energy. Next, we need more money for pension and Medicare in the aging society. But ~~more and more~~ tax ~~payer~~ ^{we will have fewer} ~~decrease~~. It will be difficult to keep ^{the present} pension system supporting old people's life. This problem ^{is} ~~has~~ ^{is} common all over the world. We don't have ^{any} specific plan about this problem yet.

2年生 G さんの "Declining birthrate"

Recently, the Japanese birthrate is declining. What are the causes? There are many reasons of it. First, I think it is due to the change of women's lifestyle. These days, more and more women get higher education. So they want to realize their own dream and support themselves. Because some of them continue their career, they marry ~~late~~ ^{late} or don't marry, though they want have a happy family. Secondly, there is an economic ^{is} reason, I think. They want to give their children higher education as they got. But it costs ^{a lot} ~~very~~ ^{much}. So they can't have many children - they can have one or two at most.

In the future, what ^{is} ~~the~~ ^{is} society ^{will} ~~will~~ become? There is a biggest problem. The working population becomes smaller. So the government gets smaller amount of tax money. Besides ~~of~~ ^{is} more and more old people need money for pension and medicare. This is serious problem. And also, people who ^{take} ~~care~~ ^{take} the elderly people are not enough because elderly people ^{we have more} ~~are~~ ^{are} much ^{more} ~~more~~ than young people. The society in which young people have to work harder and harder ^{will} ~~is~~ coming.

2年生 C さんの "Weekly schedule"

~~For~~ ^{all the} ~~for~~ ^{of} three days ~~on~~ ^{is} Monday to Wednesday, ~~my~~ ^{is} true ~~weekdays~~ ^{weekdays}. I have 15 classes ~~in~~ ^{is} a week. There are 10 classes ~~from~~ ^{is} by Wednesday ~~and~~ ^{is} then. There is "high wall" on Wednesday. I have five classes on it. But once I ~~through~~ ^{get through} Wednesday, a long holiday starts.

For me, the weekend really begins Thursday. My weekend ~~is~~ ^{is} four days. On Thursday, I have one class and I work part-time hard. Next is Friday, I ~~receive~~ ^{have} two classes and I ~~go~~ ^{go} to work ~~on~~ ^{is} a part-time ~~job~~ ^{is} like Friday. On Saturday and Sunday, I only work ~~of~~ ^{is} part-time very hard. I work for about 12 hours. It ~~is~~ ^{is} like there ~~is~~ ^{is} no true rest of mine. As for me, one week starts with a feeling of fatigue again.

2年生 F さんの "Declining birthrate"

Recently birthrate has fallen in Japan. It is common ~~in~~ ^{is} problem ~~in~~ ^{is} developed countries except the USA. What is the reason? One of the reasons is Women's high academic background. This ^{has} ~~has~~ enabled the women to work. More and more women do not get married, ^{because} ~~because~~ they want to realize their dream, ^{and} ~~and~~ they want to become independent ~~and~~ ^{and} they want to continue working even after ^{getting} ~~getting~~ married. But we don't have enough social system to help working mother. Moreover we need a lot of money to raise children especially education.

The falling birthrate causes the problem ^{of} ~~there~~ ^{is} smaller working population. And that causes the smaller amount of tax money. Moreover we have faced the aging society. More old people ^{will} ~~need~~ ^{will} more money for life security and medicare. ^{is} ~~is~~ ^{is} pension

2年生 D さんの "City & the country"

I prefer living in a big city. Firstly, ~~it~~ ^{is} a city is very convenient. For example, when I want to buy something, I can go to buy ~~at~~ ^{at} a shop immediately. Everywhere in a city is easily accessible by frequent public transport. And I can go to university easily. Secondly there are many pleasant places in a city. I often go to dinner with my friends. And I go to movies, shopping, concerts, part-time job and events.

The country is also good. Firstly, people are kind. And local ^{human} ~~community~~ ^{relationships} ~~is~~ ^{is} strong and each neighborhood remains strongly interconnected. When I am in trouble, I can ^{ask} ~~ask~~ ^{ask} my neighborhood for help. Secondly the country is calm. The country has ^{a lot of} ~~big~~ ^{is} natural ~~scenery~~ ^{is}. For example, trees, rivers, mountains, the sea and so on. So the air is ~~very~~ ^{is} fresher and cleaner. Then I can see nice night sky. When night falls, I can see many stars and the moon. It's very beautiful.

5. 分析(2) アンケート調査の結果と分析

5.1 調査結果

7月末の授業において英語自己紹介文作成後、以下の質問2つに答えてもらった。質問2題に対する学生の感想・コメントを以下に示す。

<資料3> 学生の感想・コメント

質問1 パラグラフを意識することで書きやすくなったか、それとも変わらないか。どう思うか。
分からないという者1名、変わらないという者1名。まだ十分に確信が持てないという者が回答者49人(56人中7人欠席)中4人だった。以下に、そのコメントを示す：

- ・パラグラフを意識して書くと確かに書きやすいですが、1つのトピックを追求していくことがまだ難しい。
- ・書きやすくなったが、1つのパラグラフにどれくらい詳しく書いていいのかわからない。
- ・どこからどこまでが1つのまとまりがあるのか未だ判断できないので、どちらとも言えません。
- ・パラグラフ・ライティングの原理は分かったけれど、1パラグラフ1トピックで書くのは難しいと思いました。つい話題がそれていきそうで難しいです。でも、1トピックで沢山書けるようになったと思います。

他は、すべて、以下のとおり肯定的なコメントであった：

- ・パラグラフを認識することで、自分で書いた文が読みやすくなったり、また1つのパラグラフに対していろんな文章が思いつくようになった気がします。
- ・パラグラフを意識して英文を書くと、内容が思いつきやすくて、書きやすく感じた。頭の中でも整理されて書きやすくなったと思う。
- ・書きやすくなりました。後から見直す時に読みやすくなりました。
- ・第1パラグラフにはこれを書こう、第2パラグラフにはこれを書こうと決めたら、とても書きやすくなって驚いた。英文を書くってこういうことなんだと思った。
- ・「1つのパラグラフに1つのトピック」が、切る所が難しいときもあるけど、初めてそう教えてもらって。とてもわかりやすく、書きやすくなりました。
- ・パラグラフを意識すると具体例や文章の内容がふくらんで、書きやすくなった。後から、自分で読んだ時に読みやすくなった。分かりやすいです。
- ・初めにそのパラグラフのコアになることを言っておけば、自然にその説明がうかんで書きやすくなりました。前はもっと漠然としていて何を書くか良かわからなかった。
- ・パラグラフを意識すると、文章の説明がしやすくなりました。文を作るのが楽になったし、頭も整理しやすい。
- ・はじめての頃は、どうやって、どういう展開にしていけばいいかわからなくて書くのが難しかったけれど、パラグラフを意識し始めたら、内容を1つに決めて進めていくことで、すぐスラスラと文が書けるようになったと思います。
- ・書きやすくなった。Topicが決まれば、内容がふくらませやすいかもしれない。
- ・最初は、難しかったけど、慣れてくるうちに書きやすいとおもうようになりました。文の書

きたいことがハッキリしてくるので。

- ・明確になったことで書きやすくなっていると思います。
- ・意識するとパラグラフをつくらなきゃいけないから、いろんな事を書こうと思って、文が増えてよいと思う。
- ・文章が書きやすくなりました。パラグラフを考えないで書こうとすると、いろいろな事を書きすぎて、結局まとまりがない、だらだらとした文章になっていました。しかし、パラグラフの事を考えて書くと、1つのトピックに対して、より詳しく、まとまりがある文章が書けるようになったと思います。
- ・最初より書きやすかったです。整理して書けるので、文章がつくりやすいです。
- ・1つのパラグラフを内容あるものにしようと努めるので、パラグラフを意識した方が書きやすくなった。
- ・文章が書きやすくなりましたが、前よりも構成を考えて書くようになったので時間はかかるようになったかも。でも、その分、前より良い文章が書けている…と思います。
- ・今迄よりも楽に英文が書けるようになった。
- ・英語の文章を書く時、今迄は何も特に考えず気のむくままに書いていたため、パラグラフを意識すると突発的なことが書けないので、書きにくいと感じたが、パラグラフにして書くと、何を書くのかが決められるので、関連したことなどがすぐに思いつき書きやすくなったし、長く文章を書けるようになった気がする。
- ・1トピックでパラグラフを書いていると思うと認識前に比べて文がだらだら続かないので、書きやすくなったかなと思います。
- ・まだ意識して書いている分書きにくいけど、慣れれば書きやすくなると思う。
- ・パラグラフを意識していた方がいいと思う。
- ・書きやすくなった。今までよりも楽に英文が書けるようになった。
- ・Yes. でも、私は語彙が少ない。
- ・よくなった。Yes./ちょっと書きやすくなった気がする。(同様のコメントが複数)

質問2 半期の授業でパラグラフに対する認識が定着したと思うか。

回答者49人中「良く分からない」の1人を除き、全員が「定着したと思う/まあまあ定着したと思う」という回答であった。「パラグラフの分け方が、いまいち良く分からない部分がある」とか「1トピックの中にある1つの共通点でそのまま続けて書いているのですが、今ひとつ身につけていないようです、自由課題の場合」という追加コメントをした者が計4人いた。

他は、すべて、以下のとおり肯定的なコメントであった：

- ・今まで知らなかったので、知ってから英語の文章を書く時に、すぐくパラグラフを意識して書くようになった。宿題で文を作る度に少しは慣れてきた気がする。
- ・1パラグラフ1トピックという考え方は、日本語の文でも意識しなければならないところですが、なぜ必要かというのをこの授業で認識できたと思います。読み手により確かに伝えるために、パラグラフの認識は大切だと分かりました。

- ・私は、全く知らなかったパラグラフについて、とても認識し、定着したと思います。
- ・パラグラフ認識が定着しつつあると思う。自分では意識して書いているつもり。書く前にこのパラグラフでは何を書こうと考えてから取りかかる様になったので、ドラダラした文、必要のない文を改善できるようになった。
- ・定着したと思う。でも、意識しすぎて、たくさんパラグラフを作ってしまうので、そこが難しいです。
- ・パラグラフは、常に意識して書けるようになりました。
- ・短い手紙やちょっとした文章でも、パラグラフを認識して書くようになりました。
- ・まだ、時々パラグラフを分けるか迷う時がありますが、毎回ライティングをしているうちに、初めよりは断然パラグラフライティングについて分かったと思います。
- ・まだまだ気をつけないと間違えそうだけど、少しづつできていると思う。
- ・知ってよかった。
- ・今迄意識してパラグラフを考えたことがなかったが、パラグラフというのを自然に意識するようになったのではと感じる。
- ・定着できているかどうかは分からないけど、自分なりにパラグラフを意識して書けるようにはなった。
- ・定着したと思う。以前は気にもしませんでした。
- ・昔とあまり変わらないです。このことは知っていたから。文章構成は楽になりました。
- ・パラグラフがとても重要だということ学んだ。
- ・定着してきました。英文を書く時に、ちゃんとパラグラフを考えるようになりました。
- ・書くのがスムーズになった。
- ・パラグラフ認識が80%できた（自己紹介文では難しい）。
- ・まあまあできるようになった。でもまだ分からない時もある。
- ・Yes. / まあまあ定着したと思う。(同様のコメントが複数)

5.2 アンケート結果の分析

(1) 質問1への回答：

「パラグラフを意識して英文を書くと、内容が思いつきやすくて、書きやすく感じた。頭の中でも整理されて書きやすくなったと思う」、「関連したことなどがすぐに思いつき書きやすくなったし、長く文章を書けるようになった気がする」、「パラグラフのことを考えて書くと、1つのトピックに対して、より詳しく、まとまりがある文章が書けるようになったと思います」など。

これらのコメントに集約される学生の回答内容は、驚くほど肯定的なものばかりだった。これらのコメントから、パラグラフを意識して書くことにより、トピックについての支持文の創出が容易になったことが確認されたとと言える。パラグラフを意識して英文を書くと、トピックに関連したことがすぐに思いつき、書きやすくなり、まとまりのある長い文章が書けるようだという学生達の感想は、パラグラフ・ライティングの効果を確信させてくれる貴重な“証言”である。

(1) 質問2への回答：

「(パラグラフについて) まったく知らなかった」「知ってよかった」など。

問2に対して、「パラグラフの分け方が、いまいち良く分からない部分がある」と感じている者がいるが、殆ど全員が定着したと思う・まあまあ定着したと思うという回答であった。4月の自己紹介文ですでにパラグラフ構成が整っていた学生の1人は、「昔とあまり変わらないです。このことは知っていたから。文章構成は楽になりました」と書いていた。

「今まで知らなかったので、知ってから英語の文章を書く時に、すごくパラグラフを意識して書くようになった」、「私は、まったく知らなかったパラグラフについて、とても認識し、定着したと思います」、「知ってよかった」などのコメントは、学生達の貴重な「証言」として受け止めなければならないと思われる。大学の1、2年生、英語学習を始めて7、8年もたっている時に、英文の基本であるパラグラフについてまったく認識していなかったという学生達のことばが意味するところは大きい。それまでに、パラグラフについて指導されていなかったということである。英語教育が重視・強化されているにも関わらず、パラグラフに対する認識の欠如した学生が多いのも当然である。これは、まさに、英文ライティング指導のおくれた状況を物語っている。

英文ライティング指導の不十分な状況について、杉浦(2002:150)が的確に指摘している。「コミュニケーションを重視した外国語教育では、『話す、聞く、書く、読む』という4技能のうち『書く』力の要請が一番おこなわれているといえる。これは、非母語話者の教師には、学習者が書いた者が『正しい』かどうかという判断が難しい場合が多いという点と、多人数の学習者に対して一人の教師という授業形態ですべての作文に目を通すのは教師に負担がかかり過ぎるという現実問題のため、授業が行いにくいからと考えられる。」そして、「外国語学習の多数をしめる初級・中級レベルでは、学習者の多くがコミュニケーション能力としては『話す、聞く』に関心があるため、『書く』ことの教育の不十分さという問題は『幸いにも』大きな問題としては表面化せずにすんでしまった」と言う杉浦の言葉は、非常に説得力がある。英文ライティング指導のあり方が問われなければならないだろう。

そして、パラグラフについて「全く知らなかった」「知ってよかった」という学生のコメントは、もう少し早い段階で、英文ライティングの基本としてのパラグラフを指導し、認識させる必要があることを確信させてくれる。

6. まとめ

本研究が対象とした授業では、まず、パラグラフ構成を認識していない者の多い非英語専攻生に、パラグラフ・ライティングを定着させることを目指した。パラグラフについて理解させた後、英語総合活動とコントロールしたライティング実践という半期の指導で、それまでパラグラフの認識がなかった学生に、英文ライティングの基本としてのパラグラフ概念を定着させられることを確認した。そして、学生のライティング作品、および、学生の感想・コメントの分析から、以下の3点が確認された：

- (1) 半期のパラグラフ・ライティング指導で、学生のライティングが質的にも量的にも大きく改善された。
- (2) 書き手がパラグラフを意識すると、トピックに関する支持文の創出が容易になった。学生達は、パラグラフを意識して書くと、トピックに関連したことがすぐに思いつき、英文が書きやすくなったと、コメントしている。
- (3) 学生達は、パラグラフについて「全く知らなかった」、「知ってよかった」と述べている。なるべく早い段階にパラグラフ・ライティングの指導をすることが必要かつ効果的だと思われる。

パラグラフを意識すると、トピックに関連したことがすぐに思いつき、英文が書きやすくなったというコメント、そして、パラグラフについて「知ってよかった」という学生達自身のことばは、貴重な証言として受け止めなければならないだろう。これらを念頭に置き、さらに多くのライティング実践を促していきたい。そして、書くことにより英語の発信力を強化していくことが期待できるだろう。今回行ったライティング作品およびコメントの分析は、パラグラフ概念の定着をはかることが英文ライティングを容易にし、ライティングにおける発信力養成につながることを、確信させてくれたと言えるだろう。

参 考 文 献

- Fujieda, K. & Mann, R. (1992a) "Types and Distribution of EFL College Composition Errors," 小野経男他『誤文の実態－予測・形成・防止のメカニズム－』、大学英語教育学会 (JACET) 中部支部、pp.45-64
- _____. (1992b) "Native and Non-Native Speakers' Reaction to EFL Composition Errors," 小野経男他『誤文の実態－予測・形成・防止のメカニズム－』、大学英語教育学会 (JACET) 中部支部、pp.83-108
- Goldstein, Lynn M. (2004) "Questions and answers about teacher written commentary and student revision: teachers and students working together," *JOURNAL OF SECOND LANGUAGE WRITING*, Volume 13: pp.63-80.
- Graves, N. (1988) A classroom comment made at the TESOL MA Program in Tokyo, Teachers College, Columbia University.
- Grohe, William. (1988) "What Type of Writing Should We Teach Our Japanese Students?" *The Language Teacher*, XII, No.11, pp.51-55.
- Hirose, Keiko. (1998) "The Effects of English Paragraph Writing Instruction on Japanese University Students," *JACET BULLETIN* Vol.29, pp.51-63.
- 石橋千鶴子 (1993) "An Oral Approach Leading to Summary Writing: Integrated Activities for Paragraph Writing in a Large Class," 『愛知淑徳大学論集第』、18号、pp.1-11

- _____ (1998)「1年次コミュニケーション重視の英語学習と学生の意識-愛知淑徳大学現代社会学部英語学習に関する調査報告-」『愛知淑徳大学現代社会学部論集』、第3号pp.1-16
- _____ (1999)「誤り分析からみた英語ライティング能力の実態とその指導」『愛知淑徳大学現代社会学部論集』、第4号、pp.1-12
- _____ (2004)「非英語専攻の学生に対するパラグラフ・ライティングの指導とその効果」『愛知淑徳大学現代社会学部論集』、第9号、pp.77-89
- Jacobs, H. L., Zingraf, S. A., Wormuth, D. R., Hartfiel, V. F., & Hughey, J. B. (1981) *Testing ESL Composition: A practical approach*, Newbury House.
- 木村友保 (1996)「生徒の書いた英作文のコミュニケーション能力」大学英語教育学会中部支部大会における発表
- Krashen, Stephen D. (1987) *Principles and Practice in Second Language Acquisition*. Prentice-Hall International(UK) Ltd.
- Long, Michael H. and Porter, Patricia A. (1985) "Group Work, Interlanguage Talk, and Second Language Acquisition," *TESOL Quarterly*, Vol. 19, No. 2, pp.207-227.
- 宮田学編 (2002)『ここまで通じる日本人英語』、大修館書店
- 岡秀夫 (2002)「バイリンガリズムと言語教育」、上田博人編『日本語学と言語教育』、東京大学出版会
- Okumura, Kiyohiko. (1997) "Summary Writing in the Reading Classroom,"『大学におけるライティング指導の課題：実践研究の報告』、大学英語教育学会（JACET）関西支部ライティング指導研究会、pp.13-24
- _____ (1998) "Summary Writing in the Listening Classroom,"『大学におけるライティング指導の課題：実践研究の報告(2)』、大学英語教育学会（JACET）関西支部ライティング指導研究会、pp.13-24
- 杉浦正利 (2002)「コーパスに基づいた外国語作文支援システム」、上田博人編『日本語学と言語教育』、東京大学出版
- Tange, Shogo, et al. (2000) *Communicability and Its Relevance in EFL Writing Classes*, Sentence-Error Study Group, Chubu Chapter of JACET.
- 天満美智子 (1989)『英文読解のストラテジー』大修館書店
- 上地安貞 (2000) *Survival Writing for College Students*, 三修社
- Yoshimura, Toshiko. (1997) "A University Academic Writing Course for Non-English Majors: Teaching Paragraph Organization and Rhetorical Pattern,"『大学におけるライティング指導の課題：実践研究の報告』、大学英語教育学会（JACET）関西支部ライティング指導研究会、pp.63-74